

2015 年度秋学期
学生による授業評価アンケート結果の評価

神学部

個々の授業に関しては概ね満足度は高いと言える。しかし、学期に受講する科目全体を学生たちがどう評価するのか、質問は適切であるのか、受講者の数に関わらず同じアンケートでいいのか、受講する科目数と求める授業外学習時間との関係など、授業評価アンケートそのものを再検討する必要があるだろう。アクティブラーニングが有効に行われるため、改めてFDを行なう必要もある。

コア・教養

教養科目は概ね満足度が高い。一方で、授業外学習時間の少なさが目立つ。0.7 台の数字も見られ、改善が求められる。コア科目は、科目によって評価がまちまちで、そう評するのは難しい。全体的には、アクティブラーニングを取り入れたクラスに対する、学生の理解不足やコミットメント不足が感じられる。アクティブラーニングのスタイルを用いる時は、学生の理解を得られるよう、あらかじめ丁寧に説明をした上で、学びを始めることが必要であると思われる。

神学科

科目および担当教員(さらに学生)によって、評価の善し悪しはありますが、2015 年度秋学期も概ね大過なく、神学科の提供科目の授業を学生たちは評価しています。まさに可もなく不可もなく一言にまとめることができます。ただ危惧される点が一点あります。教員の側は FD など研鑽を積んだ結果、教育方法を改善する努力をしていますが、その意図が(一部の?)学生たちに十分に伝わっていない節があります。各科目と方法とは密接に関連していますので、教員の側で十分に検討することと同時に、学生たちに周知徹底する努力も必要であると思われる。

ACTE-ES

Students expressed appreciation for instructors who: simplified complex material/ideas; facilitated class participation and student presentations; gave assignments that deepened knowledge and improved skills; gave helpful feedback; used audio-visual tools; etc. Students want professors to: give more detailed and concrete class plans/schedules (and to honor them when given); give more guidance for tests, research, writing; facilitate more student participation and engagement with peers. One major glitch or oversight: we did not receive course evaluations from EAI students. On average, students rated professor performance more highly than their own. For example, instructors' handling of assignments and class time received highest ratings, whereas students' enthusiasm, ability to grasp subject matter and to acquire valuable knowledge and skills received the lowest ratings. Average study time was 2.54 hours, with a high of 4+ hours and a low of 1.72 hours.

国際キリスト教学専攻

全般的に学生の評価が高かったことが第 1 の特徴だった。英語、韓国語を学生たちが着実に身につけていることがわかる。ただし、多読中心のクラスの進め方について少数の学生から疑問が提起されていた。今後、より丁寧にクラスで説明するの必要を感じた。留学生とともに学ぶクラスは異文化理解の面で大きな成果を上げていることが分かった。教員がクラスの準備に大変努力していることが、学生の高評価につながっている。

キリスト教福祉学専攻

授業内容に関しては、相対的に満足している様子がうかがえた。特に、演習科目に対して積極的に学んでおり、また意見を話す機会を多く設けてほしいという希望もみられた。ただ、改善点に対する意見は、「教員の言葉がきつときもあった」「休み時間にまで食い込んでいる」など漠然としたものや、ただ批判しているだけの意見もあるので、授業改善のためにはアンケート内容も改善の必要があると考える。

神学研究科

開講9科目について、それぞれ満足度の高いクラスが提供され、神学・教会、聖書学の各分野で大学院にふさわしいレベルの教育が提供されている。授業外学修時間は平均1.26時間で、さらに期待したい。近現代のプロテスタント神学、宗教改革史、聖書解釈学に関しては「良い点、改善点」に記入が多く、クラスにおける活発なコミュニケーションが窺われる。全体的に大きな問題はないと思われるが、「改善点」の記入を生かして行きたい。

教会音楽専攻科

音楽専攻科の場合、インターンという制度は、それまでは信徒として教会で奉仕をする立場から、教役者側の視点が強くなる機会だと思います。それにより、教会の見方も自ずとより広い視野に立って見る事が出来るようになります。両方の立場を理解した上で、教会に仕えることが出来る人材の輩出には、貴重な機会と言えます。

2016年1月12日
教授会 資料